

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 8年8月9日

事業所名 I am

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	3		積極的に近所の公園や交流センターをジュニア達の支援の場として活用しています。	デッドスペースの見直し、便利グッズ等を活用して快適なスペースを常に確保できるようにしたい。
	2	職員の配置数は適切である		5		配置数が適切になるよう、勤務状況に応じてその都度考え、配置しています。	引き続きより質の良い支援の為に人員体制を見直したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	1	4		ハード面でのバリアフリーが困難な場面ではスタッフが常に付き添います。	引き続きジュニア目線に立ち段差や滑りやすい箇所を適宜確認して、改善又は注意喚起をする。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	2		PDCAサイクルシートを作成し、支援会議の進行がスムーズになるようにしています。	見直しのタイミングが不規則なので、効率よくサイクルを回していけるように見直す必要がある。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		定期的に保護者アンケートを実施し、スタッフ間で共有しています。	スタッフ共有率を引き上げるべく会議の場で周知する。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	1		定期的に実施して、保護者に周知しています。	周知結果を保護者が把握しているかを確認出来るようにスタッフが積極的に保護者に声掛けをしていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1		相談事業所と定期的に連絡を取り合い、業務改善に繋げています。	第三者による外部評価を今後検討していきたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	1		参加スタッフに満足度や次回への希望を聞き取り次回の研修に繋げています。	研修内容の拡充に繋がるように、支援センターで情報を収集し、リーフレット等で周知出来るようにする。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5			ジュニアや保護者からの聞き取り、支援会議でスタッフ間の情報を集約した上で、児童発達支援管理責任者を中心に個別支援計画を作成しています。	今後も適宜アセスメントを行い、今後もよりよい個別支援計画を作成できるように、努める。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1		事業所の支援方針に沿ったアセスメントシートを作成して実施しています。	適宜内容を見直し、アセスメントシートの改善を務めたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	1		日頃の療育を振り返り反省し、改善につなげるよう週に1度の支援会議を設けています。	残すプログラム、新しいプログラムを選択して活動プログラムの立案と拡充を行っていきたい。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	1		ジュニアの日々の様子を振り返りながら、成長に合わせた活動を提供しています。	今後も会議を通して活動プログラムの立案を行ってきたい。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1		各ジュニアの下校時間を熟慮し、その時間帯で利用するジュニアに合わせて起きうる事象を検討し課題を設定しています。	立案し、実行した課題の振り返りが出来るように努めているが、より正確に共有出来るようにしていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		ジュニアの希望も取り入れ、個の活動も、全体の動きも支援できるよう努めています。	学年が上がるごとに形成される集団や、個人の活動の変化対応し、個別支援計画を作成するように努める。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1		支援前に当日スタッフとジュニアを確認しながら打ち合わせをしています。利用人数が多い、送迎シフトの関係上スタッフが顔を合わせにくい時は、Chatworkにて利用者一人一人の綿密な支援内容を共有して支援に当たっています。	引き続き、スムーズな支援の為に支援内容や連携の精度を上げて行けるよう努める。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	1		振り返りの中で支援に必要な事はSNSを利用し素早く共有できるように努めています。	今後もシフトの関係で支援に入っていないスタッフにも情報共有が出来るように努める。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5			すぐに支援の記録が取れるように、スタッフの配置や記録方法を確立しています。	支援事例を作成し、より現場に還元できる研修を立案実行しスタッフの能力向上に努めたい。

18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1	6ヶ月に一度モニタリングを行い、個別支援計画の見直しを個別支援会議を通して判断しています。	6ヶ月に限らず、モニタリングが必要だと判断した場合は、保護者とコンタクトを取り適宜個別支援計画を見直すようにした。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせで支援を行っている	5		アセスメントに基づいた支援活動を行っています。	アセスメントに基づきガイドラインを基本活動を複数組み合わせで支援を行っていくよう努める。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	1	要請があれば、児童発達支援管理責任者が中心となって参加しています。	今後ともサービス担当者会議に参加出来るように調整を続けるよう努める。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	4	1	送迎時に先生と交流を持つように努めています。日々の支援や学校での生活等情報が共有が出来るようにしています。	学校によって情報の共有に偏りがあるので、フラットに共有できるように今後も交流に努めたい。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				現在医療的ケアが必要な利用児童は通所していません。必要に応じて連絡体制が取れるように努めます。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	1	情報共有が出来るように事業所間で連絡を取り合っています。	情報共有が出来るように今後も連携を取れるように努める。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	3	2	定期的な事業所見学の機会を設けています。その際に先方にジュニアの活動の様子、支援内容を共有しています。	実際にジュニアの活動の様子を見てもらう等、ジュニアの卒業に備え、福祉サービス事業所との連携を今後も積極的に取れるように努める。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	1	専門機関と連携を取り、支援に関するアドバイスや、研修に関する情報提供を受けています。	今後も連携を取り、支援の向上に努める。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	4	1	交流センターと連携を取り、ジュニアが無理なく参加できるイベントや利用出来るタイミングを相談できるようにしています。	地域児童と交流できるオープンイベントの検討に努める。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	3	参加出来る協議会への情報共有を周囲に協力を求めています。	様々な地域支援に関われるように、積極的に参加出来るように努める。	
保護者への説明責任等	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	1	送迎時やセキュリティの安全なSNSを使用し、毎日提供した支援について情報を共有出来るように対応しています。	保護者発信の情報を丁寧に受け止め、今後も保護者に安心して利用してもらえるように努める。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	1	相談内容、家庭環境等に配慮し、保護者の必要に応じて支援しています。	関係機関と連携を取り合い、よりよい支援の向上に努める。	
	30	運営規程、支援の内容、ジュニア負担等について丁寧な説明を行っている	5	2	契約時に説明を行っております。また、随時不明な点については職員が説明するようにしています。	モニタリング時等定期的に、規定や支援内容を周知出来るよう努める。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	セキュリティの安全なSNSを使用し、保護者のタイミングで相談が出来るように対応しています。	今後もより迅速に、状況に応じた相談体制を整えるように努める。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	0	現段階では保護会は結成されておりませんが、保護者の意見を取り入れ、交流が出来るような活動を計画したいと考えています。	保護者が気軽に参加出来るように、事業所見学会を実施。そこで、保護者同士やジュニアと交流が持てるようにジュニアの活動体験を提供する。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5			保護者から意見や相談があった時に、素早くスタッフ間で共有できる連絡システムを確立しています。	今後も苦情があった場合、苦情受付・解決担当につなげ迅速かつ適切に対応するよう努める。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5			HP・CW・WEB通信(シバツウ)・会報誌(Cfan)で情報を発信しています。いつでも見て頂けるように、発信していることのご案内もしていきます。	保護者に通信や会報誌の感想を募り、フィードバック出来るように努める。
	35	個人情報に十分注意している	5			ア、個人情報の共有に関しての説明を行い保護者理解を頂いています。セキュリティの高い、クラウドサービス、SNSを使用し個人情報の保護に努めています。	定期的な中身を確認し、今後も一層の個人情報の保護に努める。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5			ジュニアの特性に配慮したコミュニケーションを通して支援を行っています。プライバシーに配慮し必要に応じてSNSを使い分け保護者と連携を取っています。	言葉のニュアンスによって誤解を生じないように、適切な言葉選びをするように心がける。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	見学希望者には随時対応できるように、体制を整えています。長期休みや季節の折に近所の方に挨拶をして事業所理解に努めています。	より地域に周知出来るような情報発信に努める。
--	----	------------------------------------	---	---	---	------------------------

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	1	作成し、定期的に保護者、職員に周知しています。	より質の高いマニュアルを作成出来るよう、見直しするよう努める。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		年に2回、長期休暇期間利用し、通報訓練、避難訓練、誘導訓練を行っています。	あらゆる災害に対処できるよう、訓練内容を見直し、実施できるよう努める。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		月に一度グループ内で虐待防止の研修を行っています。	今後も現場の支援向上の為に積極的に研修機会を設けるよう努める。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5		対象児童はいませんが、契約書に明記し保護者に説明をしています。また身体拘束等の適正化のための指針の掲示し周知しています。	定期的に身体拘束に関する研修を行い、安全に支援出来るように努める。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		現在は重篤な食物アレルギーのあるジュニアはいませんが、入所時に保護者から提出頂いたアレルギー調査票を元に活動プログラムを作成しています。	今後もアレルギーを考慮した支援体制を整えるよう努める。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		ヒヤリハットを共有しやすくする為のクラウドサービスを使用しています。また、ヒヤリハット事例があったか月に一度グループ事業所同士情報を共有しています。	事業所内だけでなく外部のヒヤリハット事例からより安全な支援を学べるように務める。